



女性委員会ニュース No.52

青年委員会かわらばん No. 2

発行責任者
長谷川 キクヨ発行責任者
三 瀧 知 一

連合山形

「吉村山形県知事とのホンネDEトーク」 特集



吉村美栄子山形県知事と本音で語ろうという懇談会を実現しました。はじめに、知事から挨拶と、平成24年度の県政運営の状況について「未来を見据え『元気再生』」と題した講演があり、その後青年・女性各委員会の代表者が、それぞれが今抱えている大きな課題について思うところを話しました。

☆目的 吉村知事と連合山形組合員の対話によって、労働現場の課題の解決、雇用労働政策の充実、県発展に資する。

☆日時 2012年10月2日（火）15：00～16：30

☆場所 大手門パルズ 3F「柊」

☆参加者 ◎ 連合山形：女性委員会役員10人 青年委員会役員12人
◎ 山形県：吉村県知事・雇用対策課長・子ども家庭課長
青少年・男女共同参画課長・障がい福祉課長

☆内容と総括

■知事あいさつ ①実際の職場で働いている懇談会参加者の率直な意見を県政に役立てていきたいと思っていること、②人口はすべての指標になりうると考えており、人口減少の抑制や内需拡大は大事なことで、個人の幸せと活力ある社会はお互いにWin Winの関係だと思っていること、③県政を預かって以来ずっと景気雇用対策に取り組んでいる。現在山形県にとっても試練の時が続いているが、危機=危険のキ+機会のキであると思っており、前向きにとらえ、様々なことを前向きに、県政を進めていこうというのが自分のスタンスであることを理解してほしいと思っている。

■女性委員会からの意見 ①「子育てするなら山形県」と打ち出し様々な取り組みをしていることに関わって、子どもを育てるものが支援を必要としている深刻な事例をあげ、さらなる手厚い支援の必要性を感じていること、また、安心して生活できるための施策、特に「食の安全」を含めた今後の展望についての考えを聞きたいということ、まず伝えました。さらに、②女性委員会で今夏取り組んだ「地協との学習懇談会」についての実践報告



と、学習会で出された参加女性の声も届け、男女平等に対する思いを伝えました。

■**知事からの見解** 子育て支援をはじめとした、現在進めている様々な政策の具体的な取り組み事例の話がありました。特に「卒原発」に対する率直な思いを聞くことができました。夢を見るのが大好きと仰られた知事は、例えば再生可能エネルギーと農業とをミックスさせ、一年中雪の中でも食べ物を育てられる仕組みづくり・「山形のつよみ」を強くしていけるような事業をしてみたいとも仰っていました。自宅に設置した太陽光パネルで、5月からの約半年、十分に家庭用エネルギーをまかなえたこと、冬をどうするかは今後の検討課題だが、林業とリンクさせ「木」をうまく使えないかと考えていること、地域にある資源を活用してエネルギーに変えていけば地域も潤うと思っていることなどを熱心に語られました。

また、現代は子育てに対する意識も変わってきているように思うし、変えていかなければならないと思っているということ、ウーマンリブの時代とは変わり、これからは、活力ある社会のために、有無を言わず、老若男女を問わずみんなが働いて社会を支えていく時代になった、そんな中、“女性だから男性だから”というのではなく、みんなが“人間として”、一人ひとりが働きやすい社会をつくっていかねばならないと思っている、そのための施策もあるということも語られました。



参加者の声

今回、吉村県知事を招いて、女性・青年委員会との懇談会を開催することができ、貴重な経験をさせていただきました。実際に現場で働く私たちの声や、学習懇談会での活動内容と結果を、直接知事に届けることが出来たことは、女性委員会活動にとって一歩前進できたのではないかと思います。安全・安心して暮らせる山形、雇用の創出など「あったかい」と思えるような県政に、これからも期待しています。(紺野美穂)

県知事とのホンネDEトーク、率直な感想はただただ時間が足りなかったな……ということ。質問した人はもっとつっこんで聞きたかったのではないのでしょうか。あの時間では、現在やっている施策の紹介にとどまってしまったように感じました。卒原発のところは、やはり知事も思い入れが強く、ご自分の思いや夢を語ってくれたような気がします。全体を通して、知事も話し足りなかったのでは!? (柴崎宏美)

限られた短い時間のなかで、労働現場の課題解決に向けた議論まではいきませんでした。現場の切実な生の声を聞いてもらったことに意義があったと思われま。

今回私もあらたに家庭を持った身として、子育て支援やワーク・ライフ・バランスへの取り組みについて興味をもって聞くことができました。また、知事が構想する地域の資源を活用し農業も連携したエネルギーミックスの話も面白かったです。女性の知事ということで期待する部分も大きいので、このような座談会は一度で終わりではなく、継続して開催することで意味をなすと思います。(富士綾子)



■**青年委員会からの意見** ①老後まで安心できる雇用・環境づくりなどの政策にもお金を使ってほしい、②職場で立場の弱い契約社員が少なくなく、非正規雇用がネックになって結婚を足踏みしている人も多いといった現状、③低賃金であるが故の現在から将来にかけての生活不安などの率直な思いが語られました。また、④山形の良さを実は山形県の人気が付いていないのではないかと、観光だけではなく今いる人にもその良さを気付いてほしい、そうすれば若者の県外流出も防げるのではないかと意見を言いました。

■**知事からの見解** 「やまがた新雇用安定プロジェクト」を策定したことや、若者の就職支援対策、雇止め根絶に向けた支援制度などについて、現在県が取り組んでいる政策内容などが紹介されました。

参加者の声



私たちからは若年層が安心して山形に生活できること、雇用の安定（非正規雇用者対策）、女性からは子育て支援の現状を訴えて、知事の掲げる県政運営にぜひ反映させていただきたいと思えます。ぜひ今後も継続的に実施されることを望みます。(長岡 洋)

冒頭の講演で吉村知事は、県政運営の状況について講演し、「心の通うあったかい県政の推進」「一人ひとりが輝く山形を創りたい」「元気な山形づくりのためには、若い力の活躍がとても重要」といった、県知事の温かいホンネを聞くことができました。

質疑では、私は「若年層の低賃金について」知事へ質問し、見解をいただきました。県の進めるプランの紹介がありましたが、そのプランの存在を知らなかったのが私の「ホンネ」です……。県政への関心を持つ必要性を感じました。(加藤 理)

吉村知事の夢の大きさに希望の光が見えました。山形県内でのエネルギー自給自足、雇用促進。山形県が自立して、県独自で経済を発展させられるビジョンを感じさせてくれるお話でした。

その一方で、県知事、本人の話しというよりも関係各機関の作成した資料を読み上げている感がありました。

これからも懇談会を開催し、本当の意味での「本音DEトーク」に発展していくことを期待したいと思えました。(山口俊一)



知事からは“雇用”を重視した政策や思いが語られ、山形県元気にしたいという気持ちが伝わってきた。特に子育て世代等、青年層に対する政策を手厚くしていること知事には安心すら感じた。私の周りにも低賃金で働く友人がいる。みんなが安心して、働き生活できる山形県を創ってほしい。

最後に“労働組合”に対する認識・思いを語っていただいた。語られた多くは我々と共通した認識であったと思う。特に“労働組合が大事”と仰られたことは、大変勇気を頂いた。

有意義であったことは言うまでもないが、だからこそ、継続した定期的な意見交換の場を設けてほしい。(三瀧知一)



吉村知事は冒頭の挨拶で「人口は全ての指標である」との考えをおっしゃられていました。その後の質疑応答の中でも山形の活力を生み出す為、数々の取り組みを行っていることを丁寧にお話し頂きました。

県政を統括する知事に直接お話しすることで、政治に若者と女性の現場の声を届けることが出来たのではないのでしょうか。このような時間を頂いた知事に感謝し、これからも山形県民の為、頑張りたいと思います。(伊藤智也)

吉村知事と連合山形組合員の対話は、労働現場の課題の解決、雇用労働政策の充実、県勢発展に資するという目的で開催、青年委員会より「若者の雇用の場の確保」「非正規雇用者増加傾向に対する考え」「若年層の低賃金による不安」、女性委員会より「暮らしの安全・安心の確保について」「連合山形6地協との懇談会の結果を得て」などの意見を知事と直接話す場となりました。それぞれの意見に対して知事より直接見解をもらい、予定時間を過ぎるほど有意義な懇談会となりました。

日ごろ知事と話すことがまず無い中このような懇談会ができてよかった。定期的に開催できればいいと思う。(渡部 翼)

限られた時間のなかではあったが、自分達の世代が抱える不安・問題について、知事からの説明および質問に対する回答など、普段では考えられない貴重な経験をすることができた。今回は青年委員会と女性委員会の合同での参加であったことから、青年層の以外にも女性が抱える問題についても知ることができ、有意義な懇談会だった。このような機会を作って頂きまして、ありがとうございます。(石山 進)

山形の象徴である自然をイメージした緑のスーツが似合っていました。私は大電力を消費する職場にあるため、エネルギー施策に興味を持ちました。代替エネルギーの利用が叫ばれる昨今、自然の力を十分に利用した発電システムを後押しする体制を築き、推進するよう努めて頂きたいです。また、省エネに関する研究や事業への助成にも手を伸ばして、電気に頼らざるを得ないこの社会をより良いものにすべく、尽力頂く事を期待しております。(加賀靖章)



知事との懇談会に参加させて頂き、雇用や低賃金による生活不安等、若者が抱える諸問題について意見を頂戴しました。知事がおっしゃったように、この危機的な時期だからこそ、「危険」を認識すると共に、「機会(チャンス)」に転ずるような可能性を探り実現させる行動をしていくことが重要です。仲間が集い、悩みや現状等の情報を共有し、要望として訴える。このような活動も解決につながっていくと思います。(荒井拓也)

県として実行している事やこれからやろうとしている事などをお教え頂くという事も重要であることは理解できるし、もっともなのだが、もっと知事の考えや本音のところを期待していた面が大きかった。事前に用意した「聞きたいこと」に対する答えも現状で展開しているサポートセンター等の機関名を挙げるに留まるだけだったので、その先のお話が聞きたいという思いがあった。また、最後の三瀧委員長の質問に対する返答に関しても、労働組合の考え方や仕組みなどについての認識の甘さを感じさせるような内容(それがホンネだったのか?)だったので、これからは、もっと認識頂けるような組合活動・運動をしていかなければいけないと感じた。(行澤香治)

今回の知事との懇談会に参加し、2点のことを感じました。第1点は若者元気プロジェクトについてです。現在、山形には雇用の場が少なく、若者は仕事が無い状態で、多くの労働者が非正規雇用になってしまっています。この状況下では山形県は若者のいない県になってしまいます。その中で県として、クリーンエネルギー事業や農業事業など産業推進に雇用の場をつくるという事は本県の強みを生かした政策であると思います。これ以上若者の山形離れが起きないようにスピードを持って政策を行っていただければいいと思います。

2点目はエネルギー政策の展開です。福島原発事故により、福島から多くの原発事故の被害者が山形県に避難を余儀なくされています。だからこそ、山形は原発によらない新たなエネルギー政策を推し進める必要があります。再生エネルギーを導入することにより、安全・安心な社会とそれによる新たな雇用の場が創出されます。私たちの組合でも「脱原発」に取り組んでいますので、協力していきたいと思います。

今回知事から、県の政策やお考えをじかに聞くことができたが、時間が短すぎて懇談とはいかない状況でした。今後も続けて行き、若者の声をじかに聞いて頂くためにももう少し時間をとっていただければと思います。(大内和之)

急遽発言させて頂くことが決まり、(他県出身者として)山形県に対する思いや伝えたかったことを、少しでも知事に話すことができました。知事と普段の生活の中で話すという機会は一生のうちで多くない事なので、とても貴重な体験ができたと思います。

もし、来年もやるなら、時間をもう少し多めに設けてたくさん話し合えたらと思いました。(坂之下慎太郎)



予定時間を超えてしまい、知事を交えた集合写真を撮ることもできないまま大慌てでの解散となりましたが、労働組合に対する思いも聞け、聞いていただきたいと思うことは届けられたのではないかと思います。できればもう少し多めの時間、茶話会風にゆっくりと「会話」のできる状況での懇談会が、もう一度できればいいと思えた90分でした。